

水道施設の耐震化は

答「アセットマネジメント調査」を実施



田中榮一議員

【水道事業について】

問 水道事業運営を持続していくために「白馬村水道事業ビジョン」を策定した。その中で、安心して水道を使用していたくために多くの課題が示されているが、対応は。

村長 更新計画を策定するうえでの資料とする「アセットマネジメント調査」を実施します。この調査は、水道資産の健全性の評価、及び更新需要の把握、施設更新の重要性度・優先度、耐震化を優先した場合の推測、更新に要する財源とのバランスなど、様々なケースを検討するものです。

問 管路の布設替えは急務とされているが、管路図はできていますか。

村長 村内を3分冊した「上水道台帳」を整備しています。管路の種類、図面の区域番号管の種類などを掲載しており、管路等の新設、更新があった場合はその年度内に台帳の修正をしています。

問 工事には多額の財源が必要だが、見通しは。

村長 老朽管対策として生活基盤耐震化交付金があり、管路の更新に要する費用は、起債を含む自主財源のみとなります。

問 水道事業の継続には、若手技術者確保・育成が重要と思われるが。

村長 今年度、後継者とするべく職員を採用し「水道技術管理者」の資格を取得させ、有資格者の職員が在職中に全ての知識を引き継げるように、人員配置をしました。

【子育て支援について】

問 「子ども・子育て支援新制度」がスタートし1年

が経過した。新制度では、一番身近な市町村が主体となって、地域のニーズにあった施策を行うことになっていったが、どう取り組んで来たのか。

村長 平成27年度から保育園の3歳児未満の定員数を4名増として、34名としました。新制度の施行により入園基準の緩和や、地域の特性上、夏季と冬季の3歳未満児の入園希望が多いことから、白馬幼稚園と協議する中で、満3歳児になる児童受け入れをしていただきました。放課後児童クラブについては、対象学年枠を撤廃し、小学6年生までを受け入れとしています。

問 現在の状況と課題は。

村長 3歳児未満の受け入れは定員を増やして対応しているが、希望が多く保育士の確保に苦慮しています。病児・病後児保育事業については、大北管内の市町村と意見交換をしながら検討していきます。

【白馬高校について】

問 地域振興という考えから白馬高校支援事業を進めてきたが、担当が総務課から教育委員会に変わった理由は。

村長 平成21年7月に「子ども・若者育成支援推進法」が成立したことに鑑み、総合的な施策が必要と思っており、慣性



災害に強く、いつでも安心して飲める水道事業が求められています。

(老朽化している源太郎水源池)

訂正：4月30日発行の116号写真説明で「8時10分の始業」としましたが、実際の始業時刻は8時15分です。

のある自治体の姿勢こそが教育であると考えていることから、教育委員会教育課へ変えたものです。関連する地域振興については総務課に残しており、白馬高校の魅力を日本中に発信することが、ひいては白馬のブランドを高めるといって最高の地域振興になると思っています。